

# 2012年夏 49VS隊 富士登山

2012年夏期の活動としてVS隊は、日本最高峰「富士山(3,775.6m)」の山頂を目指し、全員無事登頂を果たした。これはその記録である。

VS隊の夏期遠征はここ数年低迷していた。今年こそと、まずは実施日程の確保から始めた。高校生、大学生のスケジュールが合うのは、BS隊夏期野営終了後の数日間のみ、それでも2日間程度である。2日間で実施可能なVSならではのインパクトのある活動とは…。いろいろと意見は上がったが、どれも決め手に欠ける。そんな中、誰かがつぶやく。「富士山2日で登れるかな」その一声から今回の夏期活動が決定した。実施まで4週間弱。参加者を確定し全員で計画書の作成に着手した。

実施期間；2012年8月23日(木)～24日(金)  
参加者S；Nスカウト、K1スカウト、Yスカウト、  
Tスカウト、K2スカウト  
指導者；Y指導者  
合計6名、近年にない大型遠征がスタートした。

■ 8月23日(木)  
鷺沼集合～富士山駅～吉田口五合目  
～8合目(白雲荘泊)

5：50 鷺沼駅下りホーム集合。  
久々のVS夏期遠征。スカウトの顔は不安と期待で満ちている。なぜか個人装備が異常に大きい。重そうである。初めての高山行でもあり「そなえよつねに」が効きすぎているのであろうか、途中でばてないか不安が残るがスタートとなった。私自身、3年ぶりの山行だ、両膝をサポートで固め万全の態勢で臨んだ。スカウト活動は儉約を旨とするため総て各駅停車利用である。長津田、八王子、高尾と乗り換え一路、富士急行富士山駅へと向かう。

9：20 富士山駅到着。  
ここで路線バスに乗り換え富士スバルライン五合目を目指す。平日とはいえさすが富士登山バス発着駅である。大勢の人であふれている。我々は定期バスに乗り遅れたが、50名ほど残されていた。この後臨時便が出るとの事。みなさん気を付けて、お先に失礼いたします。

10：55 五合目到着。(標高2,304m)  
駐車場待ちの車の列。登山者、下山者、観光客と車と人で溢れ返っている。バスを降りた我々は登山道へと進み持参の弁当で昼食を済ませ、身支度を整えた。



11：45 五合目出発。  
幅広い未舗装路を小さな登り下りを繰り返して、途中から登山道へと入り込む。ここからは山頂域に達するまで下りはない。ひたすら登る。小さな歩幅でゆっくりと登る。皆まだ元気な様子だ。しかし人の多さには参ったものだ。数人の小パーティーから30名を超える団体ツアーまで。一旦団体ツアーの中にまぎれ込むと抜け出すのが容易ではない。我々は自己のペースを維持し進み続ける。

12：25 六合目(標高2,400m付近) 10分小休止



10分小休止  
休みを入れるにも団体ツアーを避け場所の確保にひと苦労。ここまでは何ら問題なく歩を進めてきたが、先を見上げると九十九折の登山道にカラフルなウェアが連なり雲の中に消えていく。人の多さには覚悟していたがまさかこれほどとは。下界を見渡せば、数日前のBSキャンプが懐かしく雲間に山中湖の全貌を確認した。塩飴でのどを潤し再び出発。スタートするにも団体の流れを避けての行動となる。

13：20 七合目手前(標高2,680m付近) 15分小休止

15分小休止  
落石防止の鉄製フェンス沿いに茶赤色の砂地を進む。登山というよりは、近未来的な映画の一場面、火星都市の様子が連想される。次第にスカウト1名が遅れ始めた。歩みは進むものの非常にスローペースだ。呼吸も苦しそうである。他のスカウト達も疲労の色が濃い。少し長めの休みとし、行動食のオレンジを食した。耐力回復を望み再び登り始める。

14：15 七合目富士一山館前(標高2,820m付近) 15分小休止

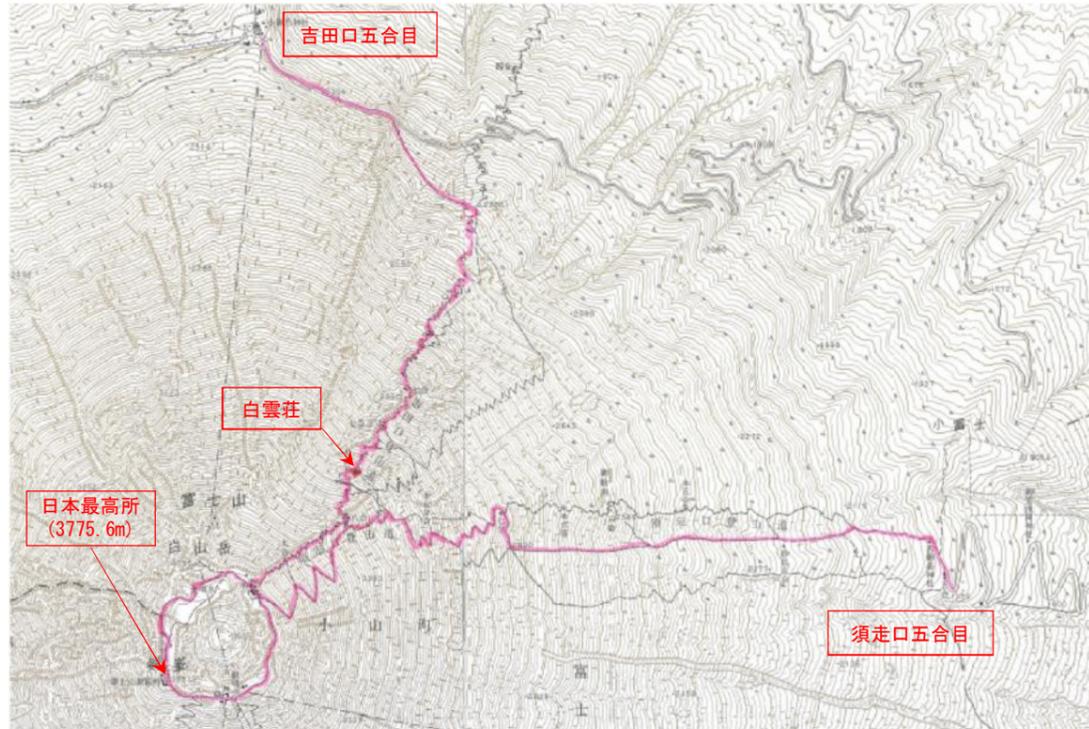
15分小休止  
吉田ルートは、富士登山ルートとしてはポピュラーなルートである。登山者が多いが、山小屋も多い。山頂を見上げると山肌へばり付くよう山小屋が重なり要塞のようだ。本日の宿泊地、「白雲荘」も視野にあるのかもしれない。山小屋の名前を一軒一軒確認しつつ先を目指した。



15：00 八合目手前(標高2,970m付近) 15分小休止  
スカウト達の歩みは一層ダウンしてきた。高所障害を懸念し準備してきた酸素缶を皆で使用したのだが特段の変化はみられない。高山病特有の頭痛、吐き気の兆候はでていない。単なる疲労と判断し、さらなる高所へ歩を進めた。

15：40 蓬莱館前(標高3,090m付近) 10分小休止

10分小休止  
既に標高3,000mを超え、本日の宿舎地「白雲荘」は頭上に見える。一気に登りつめたいが、皆の足は進まない。やむを得ず一息を入れることとした。突っ伏すように皆、体を休める。自分は、体が山慣れしてきたのか快調そのものである。がんばれ！高校生、大学生！



16：20 白雲荘(標高3,200m付近) 宿营地到着  
予定よりは若干遅れたが全員無事到着した。各自好みのコーラ、ポカリ、ビールで乾杯し、本日の苦労を互に称えた。夕食は白雲荘名物ハンバーグカレーだ。朝食の弁当も受領、明日のスケジュールを確認し18時には就寝となった。

山荘の寝具は寝袋で、保温性がよく熱いくらいだ。かつて富士山域の山小屋は射し違いの刺身状態で収容定員を設定していたのだが、10年程前改訂があり今は上を向いての就寝で、寝返りも可能だ。これで隣が若い女性ならば言うことなし。……残念！寝付かれず1時間毎に目が覚める。夜行で山頂を目指すパーティーもあり外は終夜人声が途絶えなことが無い様子。これも富士山特有か。



■ 8月24日(金)  
白雲荘～山頂域～お鉢廻り～須走下山道  
～須走口五合目～御殿場～鷺沼  
1：30 起床。 2：05 白雲荘出発。  
何組かのパーティーは行動を始めているが、まだ就寝者が多い。装備を静かに搬出し屋外で準備をすすめる。富士山のトイレはどこも有料(高度により50円～200円)身軽になり各自体調を整える。眼下に見える町の明かりがまばゆい。遠く都内の高層ビル群も確認できる。自分としてもこれ以上の高所は初体験となる。日本の第2峰は南アルプスにある「北岳(3,193m)」である。既に踏破しているが、富士山頂はそれより583mも高い。スカイツリーの第2展望台の高さが445mだからそれより140mも高い。まだ暗い闇の中、ヘッドライトを点灯し未知の頂所へと歩を進める。

2：30 (標高3,350m付近) 小休止10分  
ヘッドライトが連なり深夜のとは思えない雰囲気だ。光の列が山頂へと続く。皆の体調は特段問題なさそうである。

3：05 九合目(標高3,600m付近) 小休止10分  
しだいに皆の歩みは遅くなる。短めに休みを入れる。高度障害の心配はなさそうである。「次は山頂で会おう」を合図に歩き始めた。

4：50 山頂(標高3,750m付近) 久須志神社到着  
山頂直下200mを進むのに30分を要した。各所に誘導員が立ち、歩みの遅い者は左の列へ、速い者は右の列へと誘導しているが、さほどの差はない。2列とも渋滞だ。いろいろなながら進みやつとこのことで「久須志神社」の鳥居をくぐった。山頂域到着だ。スカウト達も順次登ってきた。ご来光予定時刻5時10分頃までには若干の余裕がある。雲海は低くご来光日和ではあるが、日の出位置のみ雲が厚い。シビレを切らしたところ周囲から歓声上がりご来光を確認した。日の出も素敵だが、周囲の景色が実に素晴らしい。頭上には雲一つなく、足元低く雲海がたなびく。相模湾、駿河湾などほぼ180度の絶景が望める。無料休息所に入り昨夜山荘で受取った弁当の稲荷すしとウインナー炒めて朝食とした。しかし、スカウトの胃袋は満足せず、みそラーメンの注文も。

5：55 お鉢めぐり出発  
装備を休息所前に預け、反時計回りでお鉢めぐり(火口壁一周)に出かける。山頂域北西側に位置すると八ヶ岳をはじめ甲斐駒ヶ岳、北岳、塩見岳、赤石岳と南アルプスの山々全貌が望める。眼下には雲海もなく15NJ会場となった朝霧高原が広がる。

8：15 剣ヶ峰山頂(標高3,775.6m)  
剣ヶ峰直下、「富士山に登るならば必ず日本最高地を踏破したい」その思いは皆同じ。お鉢めぐりから少し外れ三角点のある剣ヶ峰へと続く脇道に取りつく。最高峰到達への道のりは厳しかった。距離わずか30m。高度差10m弱。険しい登路。…いや、再び山頂への渋滞が始まったのだ。ただ富士山測候所脇の石段を上る。「日本最高峰富士山剣ヶ峰」の石柱が建つ山頂では皆順番に記念撮影をしている。これが渋滞の原因である。歩行時間55分を要した。



我々も他の登山者にカメラを預け記念撮影に収まった。三角点の表示は2等である。「富士山でも2等なのか」なぜか感心してしまう。富士山測候所のレーダーは既に撤去されているが、測候所はまだ機能している様子だ。約1名は、この渋滞の途中で腹痛を訴え急遽トイレへ直行、写真に納まることが出来なかった。剣ヶ峰を後にお鉢めぐり続け、浅間大社奥宮でお参り。日本最高所にある郵便局から自宅に記念はがきを投函し、装備の待つ無料休息所へと急いだ。

8：15 山頂域出発  
ここからはもう登りはない。下るのみだ。下りでは転倒による重大事故が多いのだ。靴ひもを締め直し、気も引き締めて須走り下山道を下り始める。荷揚げ用のブルドーザー道が主となる直線的な下りだ。



9:10 本七合目 見晴館(標高3,190m付近)

小休止10分

下りは各自のペース差が大きい。歩調を合わせず、休憩で合流しながら先を進める。昨日の登路とは違い人が少ない。団体ツアーが全くなく、気持ちよく砂塵を巻き上げ一気に下ることが出来る。先行者の砂塵が目目を遮り、マスクがほしくなる。



10:33 本六合目分岐下(標高2,550m付近)

小休止10分

途中荷揚げ用のブルドーザーと数回すれ違う。その昔、強力が100kgを超える荷揚げを行っていたことを思うと便利になったものだ。ブルドーザー前面の土を掘るブレード部分を荷台に加工し大きな荷を積んでいた。山頂は岩稜帯であったが、今回の休憩場所は既に樹林帯の中の木陰である。私が到着したのが9時。次のスカウト到着が10時10分。最後は30分以上の差となったが全員が集合した。最後のスカウトが到着後10分間小休止。次の休憩は五合目と確認し再び下り始める。

11:40 須走口五合目(標高1,970m付近)



全員無事下山。皆好みの飲料、コーラ、ポカリ、ビールで乾杯し、山行の成功を確認した。今回非常食として準備していたパンと魚肉ソーセージで昼食とし、制服に着替え路線バスにて、一路御殿場駅へと下った。御殿場駅からは、松田駅で小田急線に乗り換え、中央林間経由、鷺沼駅をめざし、個々途中下車、流れ解散とした。

先にも述べたが、久々大人数での夏期遠征であった。ほぼ予定通りの行動ができ、落伍者、けが人もなく大成功と思う。スカウト達は初めての高山山行で戸惑いも多かったことと思うが、皆頑張っていた。山歩き好きの私は、“富士山”は最後に登る山と勝手に決め、今回の活動でまだまだ体力の充実を実感することができた。これからはまだまだ行けそうである。諦めかけていた念願の南アルプス大縦走を再度夢見る事ができそうである。ただ、富士登山は人の多さにもう、こりごりうんざりだ。

(写真、文責：Y指導者)



## 49VS隊 富士登山 スカウト感想文

### ■ Nスカウト

夏季にやる久しぶりのボーイスカウト活動らしい活動として富士登山が計画、決行された。日数としては1泊2日で夏季活動としては物足りないと思われるかもしれないが、4泊5日などの長期的な活動だとダラダラしていた部分があったかもしれないし、近頃めっきり運動をしなくなった自分たちには富士登山でも体力の無さを痛感させられたので自分たちには充実した経験になった。特に、3000mを超えるような標高の山に登ったのは初めてで、地上との気圧の違いや、普段使っている水のありがたみを一層味わうなど貴重な経験になったと思う。ペットボトルや密閉された袋が膨らんだりへこんだりするのはある程度予想できたが、高山植物が頂上付近のかなり高いところまで生息していたことや、頂上にまで虫が生息していたのは驚きだった。それとこの登山でもう一つ思ったのが体力の低下だ。実際自分は頂上でへばってしまい、こんなことでは最初に挙げたボーイスカウト活動らしい活動をする体力が無いも同然であると思った。最近めっきり運動不足で、これからボーイスカウト活動らしい活動をするときはもう少し体力を向上させなければと思った。



### ■ K1スカウト

僕も気づけばVS4年目最後の年になっていました。今までの夏活動といえば、2年目の伊豆キャンプくらいしか実施できていなかったのが、最後に活動を行うことが出来てよかったです。富士山は一応日本最高峰の山というだけあって登る前は不安もあったけど、いざ登ってみたら他の登山客もたくさんいて、イメージしていたほど過酷な山ではありませんでした。ただ下山した後は、とても疲れました。まあなんとまあ無事に夏活動を終えることができてよかったです。



### ■ K2スカウト

私は冬のスキーに参加していないので、今回の富士登山がベンチャー隊に入ってから初めての大きい活動でした。6月の隊会議で富士登山が決定して、私が計画担当になったときは、自分に出来るのかと凄く不安でした。まあ、勿論私だけでは計画が不十分で、大半を先輩のスカウトにやってもらう感じになりました。でも、自分の考えたルートや行動予定で隊の皆さんと活動をするというのは、とても新鮮で嬉しく感じました。実際は予定通りにいきませんでした。とても楽しんで登山が出来ました。来年からローバー隊が出来てベンチャー隊の人数が減りますが、また来年の夏もベンチャー隊としての活動を行いたいと思います。



### ■ Yスカウト

私は、富士山に登るのは初めてでした。はじめて登るので計画が大変でしたが皆で協力して完成しました。そして、当日になりバスで5合目まで行きました。歩き始めたら普通の山道で、これはいけるかとも思いましたが徐々に岩が多くなり歩くのが大変になってきました。6合目からは本格的に岩場で上に山小屋が見えているのになかなかたどりつくことが出来ませんでした。そして、なんとか8合目の山小屋につきましました。あまり眠る事が出来ませんでした。2時から頂上へ向けてまた歩き始めました。寝起きたからか最初の一時間はとてもきつかったですが後は9合目まで夢中で歩きました。9合目あたりから別のルートと一緒にいけなかなかなか進めなく日の出に間に合うか心配でしたがなんとか日の出前に到着する事が出来ました。日本一の高さから見る日の出はとても綺麗で疲れが吹き飛びました。そして、富士山の頂上を一周しました。頂上から見る景色はとても凄かったです。私は、初めて富士山に登りました。頂上に着くまでは、想像以上につらかったですが頂上に着いた時の景色がとても良く、登ってみて良かったと思いました。

